

「道守養成ユニットの会」理事会開催報告



平成29年11月に設立された「道守養成ユニットの会」、今年で4年目を迎えました。県内8地域に分けた地域部会を中核として県内各地で道守活動ができる体制が整ってまいりました。また、橋梁点検実習、建設現場見学会、技術研修会等の組織的な継続教育、関係機関との連携が可能になっています。会では、これまで6月頃に理事会・通常総会・特別講演会を開催してまいりましたが、今年度は緊急事態宣言の発令に伴うイベント等の実施ができない状況になり、解除後の去る7月16日にやっと理事会を開催しました。理事会で会のこれまでの活動を踏まえた規約の改正、会員の入退会状況、2019年度の行事報告、2019年度の会計報告、2020年度の行事計画及び2020年度の予算を審議し、了承をいただきました。さらに、会のホームページの作成やロゴマークを使用した安全ベストの制作等を議論いたしました。

例年開催している大学内での通常総会及び特別講演会については中止としましたが、会の議決機関は総会であるため、第28条の書面表決を適用し、メール議決を依頼しました。主な内容は以下のとおりです。

- ①規約の改正(活動の目的の追加、役員任期、顧問・相談役の新設、県外地域部会の新設)
- ②会への寄付金の取り扱い、領収証お礼状の作成
- ③ロゴマークの活用、ホームページの開設
- ④インフラメンテナンス国民会議九州フォーラム in ながさき 2020への参画



理事会の様子

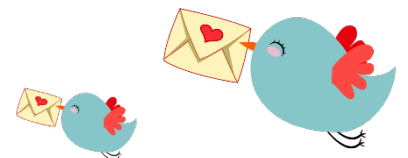
インフラメンテナンス国民会議九州フォーラムピッチイベント

準備中

「インフラメンテナンス国民会議九州フォーラム」では九州地区市町村のインフラメンテナンス支援を活動の柱としており、活動内容としてメンテナンス技術のニーズとシーズのマッチングに取り組んでいます。

令和2年4月に九州フォーラムリーダー日野伸一大分高専校長から松田浩センター長に、「ピッチイベント in ながさき 2020」を道守認定者と連携して開催して欲しいとする依頼がなされました。松田浩センター長に実行委員長を依頼し、可能であれば9月頃までに開催して欲しいとする内容でした。その後コロナ禍のために、9月までの開催は無理と判断、翌年2月頃の開催に向けて実行委員会の開催、市町アンケートの実施、ワーキンググループの開催で準備を進めてきました。実行委員会とワーキンググループに「道守養成ユニットの会」が参加し、点検・診断・補修設計・補修工事に至る観点から提言をしています。また、道守養成ユニットの会も主催組織として参画の予定となっています。1月からの緊急事態宣言の発令のために今年度の開催は無理でしたので、令和3年度に延期になりました。

開催の見込みが立ち、開催内容が決まりましたら、ご案内いたします。



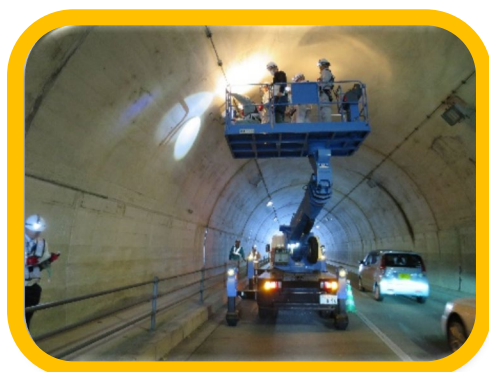
「道守補コース」・「特定道守コース」の開催！歩みを止めるな！

今年度の道守養成講座は、新型コロナウイルス感染症流行のため、先が見えない中で計画し、感染状況を見極めながらの開催となりました。本講座では初のオンライン実施も視野に入れて開催することとし、受講料納入後に開催できない場合は返金可能と明記しました。募集にあたって受講申込者数の減少が心配されましたが、いずれの会場も定員を超える応募があり、「やって良かった」と感じています。一度は、オンラインでの開催を検討しましたが、受講環境の問題点や演習・実習が対面でないとできないことから、長崎地区の道守補コースについては3か月延期となり、受講生の皆様にはご迷惑をおかけしました。

大学のイベント等のガイドラインを遵守し、演習・実習で密にならない工夫や受講者・講師の検温、発熱時の対応等で事務局もいつも以上に大変でしたが、講座開始後の辞退者もほとんどなく、無事に最終日を迎えることができました。

今年度の各コースの開催期間、受講人数を以下にまとめておきます。

コース名	開催期間	受講者数
道守補コース(長崎)	11月30日～12月16日	36人
道守補コース(関西)	8月21日～8月28日	10人
道守補コース(宮崎)	11月18日～11月27日	22人
特定道守コース	10月1日～11月13日	鋼構造 14人
		コンクリート構造 15人
		トンネル 14人



特定道守：トンネルプロジェクト演習



道守補コース：講義風景と橋梁の現場実習

今年度も実施！若手建設技術者対象「道守補助員コース」

令和元年度から、九州地域づくり協会の若手人材育成の助成を得て開催しています。今年度も30歳以下の建設業に従事する技術者を募集したところ、建設施工業、建設コンサルタント業及び市の公務員20人の応募がありました。平均年齢は25歳。昨年と今年の実習で感じたことは、産官の区別なく30歳以下の職員が少ない状況にあることでした。

11月27日にコースを開催。若手の先生方が講義を担当し、橋梁の現場点検実習と道路異常通報システムの通報演習を実施しました。12月12日のフォローアップ研修では、道守認定者が行う長崎地域での道路見守り活動に参加しての道路点検と清掃活動、その後、講義室で、先輩道守認定者と一緒に講演会と意見交換会という内容でした。「道守養成ユニットの会」の三根孝紹副会長による「生活に欠かせない土木」と木原真理事による「建設コンサルタントの魅力」の講話があり、次に、長崎大学出水亨博士による「土木の使命と価値」と題する土木の広報の取組みの講演がありました。先輩のこれまでの活躍や土木の使命についての話題提供は

若い人に新たな認識ややりがいを持ってもらう場になったのではと期待します。
ご協力いただいた先輩認定者の皆様、ありがとうございました！

橋梁点検の様子



木原理事による講話



道路見守り活動
出発します！



玉名市技術職員向けのコンクリート演習



玉名市は橋梁のメンテナンスへの意欲的な取組みで全国から高い評価を受けています。同市建設部土木課橋梁メンテナンス係木下係長から、コンクリート構造物の点検・調査に関する機器を使った演習の受講の申し入れがあり、3回程度に分けての受講となりました。

2年目は12月14日(月)に前川将輝技士が参加して実施されました。午前中の座学では、コンクリート橋の点検と点検時の着目点に関する映像教材による講義。午後は道守補コースのコンクリート演習と合同で電磁波リーダー法、中性化ドリル法、反発硬度法について機器を使用した演習を実施しました。また、玉名市からの要望により、玉名市向けに電磁誘導法の演習を実施しました。道守補コースの特徴である点検機器を実際に使用し、普段の業務で使用している講師から話を聞くことができたことは大変参考になったものと考えられます。

お知らせ

特定道守コース(トンネル)の国土交通省登録資格へ登録

国土交通省は、一定水準の技術力等を有する民間資格を「国土交通省登録資格」として登録する制度を平成26年度より導入しています。

2月10日付で、新たに特定道守(トンネル)と道守(トンネル)がトンネルの診断の担当技術者の資格として登録されました。昨年度より特定道守コースに新たにトンネル分野を設けて、プロジェクト演習等のカリキュラムを整備し、講師・関係者の尽力で資格の登録が実現しました。

トンネルの資格についても関係機関で積極的に活用していただくことを今後期待しています。また、技術者資格ですので、継続的な技術的研鑽が求められています。認定者の皆様には、技術研修会・見学会等の企画開催・参加を積極的にお願いします。



地域活動紹介 ～できることを少しずつ～

今回の活動紹介は、長崎・上五島・壱岐地域部会です。それぞれの地域で、道路見守り活動を実施しました。年度当初の計画時には、全県的にオリンピック聖火リレーコースの道路見守り活動をする準備をしていましたが、コロナ禍のために中止になり、10月頃からやっと地域の活動ができる状況になりました。



① 長崎地域部会 第1回道路見守り活動(10月30日)

いつものメンバーが久しぶりに集まってきました。普段よりも多い26人が参加。検温や密にならないようにしながら道路点検と清掃活動を行いました。



皆さん、新しいベストを着用ですね！

② 長崎地域部会 第2回道路見守り活動(12月12日)

道守補助員コースのフォローアップ研修も兼ねて実施。道守補助員コースの受講者、道守認定者と大学教職員の計38人が参加したにぎやかな活動になりました。認定者の皆様には道守補助員受講者に道路点検の着目点、写真の撮り方等を指導していただきました。



鉄筋探査機使用

③ 上五島地域部会 道路見守り活動(11月26日)



14人参加

④ 壱岐地域部会 道路見守り活動(3月3日)



5人参加

長崎市橋梁定期点検」を道守ユニットの会会員と大学で実施

令和元年度から、長崎市より橋梁の効率的な維持管理に関する共同研究の依頼を受けて、受託研究として大学と「道守養成ユニットの会」会員が連携して取り組んでいます。取組み内容の一部を紹介します。

(1) 効率的な定期点検手法の提案

① 道守認定者と連携した点検

4班(1班3~4人)編成をして橋長15m以下の30橋の点検を12月17日、18日に実施。地域精通度が高い道守認定者による橋梁の架設条件、施工技術、設置環境をも含めた総合的観点からの点検が実施できました。今回の成果として架設年が不明や不詳の7橋の架設年が判明。建設施工業の経験を生かした災害復旧や近隣工事の実施状況、架設地点の周辺住民へのヒアリング等が架設年の特定に結び付きました。

② 評価検討会議の開催による点検結果の質の向上

出そろった点検結果の評価検討会議を設置して、点検担当の道守認定者、管理者である長崎市職員、大学教員が参加した評価検討を開催。専門的な議論ができ、点検結果の質の向上に役立ちました。

(2) 市職員に対する技術的指導の実施

①市職員と道守認定者による合同点検

市職員の橋梁点検・補修に関する技術習得を図るため、点検対象の10橋について、市職員3~4人と道守認定者が同行して現地での点検作業を行い、橋梁点検の着目点と記録方法について専門的な立場から市職員に技術的指導を行いました。(写真)



②市職員橋梁点検事前研修会の開催

合同点検実施前に市職員に対して座学による橋梁点検事前研修会を開催。市職員の道路パトロール業務の範囲を広げ、橋梁点検・補修を進めていくために必要となる基礎的な知識について道守認定者、経験豊富な専門技術者、大学教員による研修を行いました。



今回の橋梁点検では「長崎市職員の点検への参加」が新しい試みで、点検の見学にとどまらず橋を維持管理する重要性を共有する場となるとともに、職員のスキルアップに結び付ける契機となりました。

シンポジウム「～災害時におけるME・道守の役割～」参加報告

激甚化し毎年のように頻発する豪雨災害、さらに南海トラフ地震による地震災害の可能性も年々高まっています。そのような時代にあって、社会基盤メンテナンスエキスパート（ME）や道守が果たすべき役割は、社会基盤メンテナンスの枠組みを超え、災害から復旧・復興にまで広がっています。地域の社会基盤を守る中核的土木技術者として、その責務はさらに拡大しています。

また、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、人と人との交流が狭まっている中でも、社会基盤メンテナンスにおいては技術者間の垣根を超えた協力体制の構築は不可欠な要素であり、そのつながりを薄めることがあってはなりません。

以上の趣旨から、愛媛大学をホストとするWeb開催によるシンポジウムが1月15日に企画され、共催組織としてインフラ長寿命化センターが、協力団体として「道守養成ユニットの会」が参画しました。岐阜大学沢田和秀教授と「岐阜MEの会」の林尚人会長の講演「豪雨災害とME」に続いて各地域養成講座と修了生の活動紹介、パネルディスカッション～ME・道守の今後～が開催されました。「道守養成ユニットの会」の吉川國夫会長が道守の紹介をし、松田浩センター長が閉会の挨拶を行いました。今回のシンポジウムに参加された吉川國夫会長のコメントを以下に示します。



吉川國夫会長のコメント



シンポジウムに参加してMEの方々のネットワーク形成力に驚きました。土木学会と繋がりを持って地方の果たすべき役割をよく理解して人材育成に努めている印象を強く持ちました。

なお、道守養成ユニットの会の活動につきましては、2020年度の行事については、3月から構想を練って技術力向上のための研修の準備を計画していましたが、5月開催予定の道路点検美化活動から延期・中止を余儀なくされました。

大学で参集しての報告会準備、会議等も自主的規制により今回は見送りせざるを得ない時期がありました。出来ることを実施するという一方で、長崎県・長崎市との三者合同点検に道守の皆さんと共に参加して成果を残せたことを自信につなげました。2021年度も幾多の反省とともに仲間の皆様と快活に考え行動します。

道守養成ユニットの会のHP完成

この度、道守養成ユニットの会のHPが完成しました。ユニットの会の活動内容、活動履歴、主要なメンバーなどを紹介しています。作成は、噂の土木応援チームデミーとマツのデミーこと出水享（でみずあきら）さんに協力していただきました。また、管理もお願いしています。HPを通して会の活動を全国に発信し認知度向上を図るとともに会員同士の交流の活性化できればと思います。定期的にチェックしてみてください。

HP：<https://www.michimori-unit.org/>



土木学会とインフラパートナー協定締結を準備

現在、道守養成ユニットの会は公益社団法人土木学会とインフラパートナー制度の協定締結に向けて準備を進めています。なお、3月30日に土木学会が記者発表を行い正式に締結が完了します。インフラパートナー制度は、『国土やインフラ保全、地域づくり、人材育成などを目指し活動している市民グループ等を「パートナー」と位置付け、土木学会として連携・協力し、インフラ関連の活動の活性化を図ることを通じて、地域のインフラの質的向上を図る。』（土木学会資料から抜粋）ことを目的にしています。詳細な情報はHPで発信していきます。

国土・インフラに係る「パートナー」との連携・協力制度のイメージ

目的 国土やインフラ保全、地域づくり、人材育成などを目指し活動している市民グループ等を「パートナー」と位置付け、土木学会として連携・協力し、インフラ関連の活動の活性化を図ることを通じて、地域のインフラの質的向上を図る。

制度のイメージ



※良質な国土・インフラの維持・発展を目的・理念に掲げるような市民グループ等。

【土木学会が連携・協力できる内容例】

- ▶ インフラパートナー開催するイベントへの参加及び後援・広報
- ▶ インフラパートナーの活動を学会広報メディアにより対外的に発信
- ▶ 本部委員会、支部及び他団体との交流・情報交換の場の提供など

【インフラパートナーが連携できる内容例】

- ▶ 学会のイベントへの参加・PR
- ▶ 地域インフラ改善のための提案
- ▶ 本部委員会・支部との交流など

センターからの報告と編集後記

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の状況によって、センターの業務も皆様の職場と同じく大きな制約を受けました。5月～8月に予定していた長崎県と共催の三者合同点検説明会やセンターでの工業高校インフラ体験実習はともにプログラムの編成が終わった後に中止になりました。認定者の皆様をはじめ多くの方々が開催を楽しみに待たれていた「道守養成ユニットの会」総会後の特別講演会と例年2月に開催している道守養成ユニット成果報告会は開催できませんでした。加えて、インフラメンテナンス国民会議九州フォーラムの「ピッチイベント in ながさき 2020」も延期になりました。

三者合同点検説明会は中止となりましたが、長崎県の振興局単位で実施している橋梁点検・防災点検と重点維持管理橋梁点検からなる三者合同点検は例年通りに実施され、延べ51人と多くの認定者が参加と報告されています。また、工業高校インフラ体験実習についても、学校ごとに開催された実習には認定者が講師を担当して実施することができました。

「道守養成ユニットの会」の地域ごとの活動も制約を受けました。道守認定者の更新に必要な行事が少ない状況になっていますが、CPD付きの長崎以外での講習会を随時ご案内しています。ご活用願います。

道守養成講座については、センターの主力だった吉田裕子さんが昨年度末に退職しましたが、若手の山口浩平准教授、佐々木謙二准教授、奥松俊博准教授、西川貴文准教授、杉本知史准教授、出水亨技術職員が分担して業務にあたりました。そして、社会環境デザインコースの技術職員の皆様にも演習の準備等に協力いただきました。講座期間中のみでしたが、本学の卒業生松田優貴君も養成講座の実施と演習の講師を担当しました。

皆様の連携で、受講者の皆様に不便をおかけすることなく、本年度の養成講座を何とか終えることができたことを感謝いたします。ありがとうございました。おつかれさまでした。

道守養成講座の開催やセンターの運営にあたっては、上田記念財団、九州地域づくり協会、長崎県、長崎市、玉名市、道守養成ユニットの会及び長崎大学から支援金、運営費等の支援を受けましたことを付記します。関係機関に感謝申し上げます。

あきらめずに、頑張りましょう！



発行 2021.3.23

問合わせ先

長崎大学大学院工学研究科 インフラ長寿命化センター 道守養成ユニット事務局

〒852-8521 長崎市文教町1番14号 TEL 095-819-2880 FAX 095-819-2879

Mail: michimori@ml.nagasaki-u.ac.jp

【公式サイト】

<http://ilem.jp>



【Facebook】

<https://www.facebook.com/ilem.nagasaki>

